

元気のヒント



井本 逸勢

徳島大学病院
臨床遺伝診療部長

遺伝性疾患(遺伝病)

と聞いてどのような疾患を思い浮かべますか。「親から子に伝わる疾患で、生まれつきの病気を持つ家族がない自分には関係ない」と考える人が多いかもしれません。

しかし、遺伝性疾患は「遺伝子や染色体の変化によって起こる疾患」のことで、「子に伝わる疾患」を指すわけではありません。

両親が健康でも、精子や卵子ができるときに突然変異が起きるため、子どもが遺伝性疾患になることがあります。誰もが遺伝性疾患の原因になる遺伝子を10個以上持っており、自分や子ども、血縁者が病気になる可能性もあります。環境や生活習慣だけでなく、多くの遺伝子が関係する高血圧や糖尿病なども遺伝性疾患といえます。まれな病気・ありふれた病気にかかわらず、全ての人は遺伝性疾患になる可能性

遺伝カウンセリング

があるのです。一方、親が遺伝性疾患になっても、必ず子に伝わるわけではありません。病気の種類によっては、ほぼ発症しない場合もあります。家族計画などにも影響するので正しい理解が必要です。

実際、多くの人が▽親の遺伝性疾患が自分やきょうだい、子どもに遺伝していないか▽子どもに生まれつき病気があり、次の子どもは大丈夫か▽がんにかかった家族が多く、自分もなるのではなにか▽高齢出産なので病気が子に生まれなにか▽いとこ婚は病気の子どもが生まれやすいと聞いたが、本当かといった不安を抱いています。

今後、健康と遺伝子との関係がさらに解明されて診断や治療できる遺伝性疾患が増えると、正しい情報がますます重要になります。ところが、インターネットの普及で情報量が多すぎてかえって何が正しいのかわりにくくなり、不安が増す人もいます。医師や

専門家から正しい情報を

こんな悩みに応じます

- 遺伝性の病気と言われた。どうすればいいか？
- 子どもが、家系に誰もいない遺伝病と診断された。なぜか？
- 自分や血縁者の病気は、子どもに遺伝するのか？
- 子どもが先天性の病気と言われた。次の子どももならないか心配。
- 親戚と同じ遺伝病にならないか不安。遺伝子検査を受けられるか？
- 親戚にがんの人が多く。自分もなりやすいのか？
- 高齢出産の場合、出生前診断を受けた方がいいのか？

医療関係者でさえ、専門でなければ日進月歩の遺伝子や遺伝性疾患の最新情報を常に把握するのは困難です。

遺伝や遺伝性疾患の悩みは、本人や家族の将来設計、家系の遺伝情報などプライバシーに関わる繊細な問題も含んでいます。このため、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーといった専門家による「遺伝カウンセリング」が求められるようになりまし。

県内では唯一、徳島大学病院臨床遺伝診療部が、常勤の遺伝カウンセラーがいる遺伝カウンセリング外来を設けています。(第2土曜日に掲載)

疾患因子 誰にも存在